

前作『普通に生きる』が世に対する問題提起だとしたら、その続編であり新作の『普通に死ぬ』は、死を見つめ追うことでの「死」を世に暮らす私たち全ての「生」を照らし出した強烈なカウンターパンチだと思ふ。福祉、医療、少子高齢化、社会制度、資本主義…現代社会が抱えている問題を、書児の暮らしを通して見事に私たちの目の前に並べてみせた。

だれかが決めた普通じゃなくて
その人の普通をその人らしく生きられたらいい
これは地域で、たくさん的人に支えられて、支え、
いのちを尽くして生き合う人たちの記録



生きて、生きて、生きて、 普通に生きて

普通に死ぬ

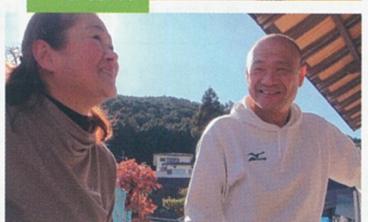
～いのちの自立～

第25回
あいち国際女性映画祭2020
招待作品

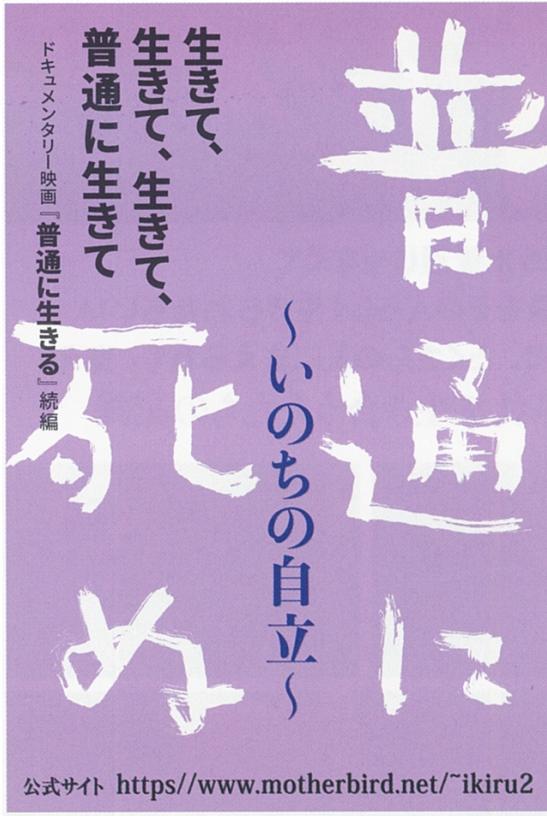
ドキュメンタリー映画『普通に生きる』続編



その人らしく生きてその人らしく死ぬ。この映画はガチガチに固まつた既成概念や正論に縛られ、身動きしづらくなっている私たちに、新しい考え方を提示してくれる希望の作品だった。



◎2020／長編ドキュメンタリー映画／
HD／カラー／119分
製作：motherbird・Cinema Sound Works
著作・配給：motherbird
録音：中山隆匡
音楽：木-Kodama- 瞳
ナレーター：余貴美子
プロデューサー：梨木かおり／貞末麻哉子
監督・撮影・構成・編集：貞末麻哉子



生きて、生きて、
普通に生きて

ドキュメンタリー映画『普通に生きる』続編

公式サイト <https://www.motherbird.net/~ikiru2>

イントロダクション

前作『普通に生きる～自立をめざして～』では、「どんなに重い障害を持っていても、本人もその家族も普通に生きる」という理念のもと、重症心身障害児・者と呼ばれる人たちの家族で起ち上げた社会福祉法人が、静岡県富士市と富士宮市にふたつの通所施設（生活介護事業所）〈でら～と〉と〈らぼ～と〉を開所させる五年間を追いました。

法制度の改革の波に揉まれつつも「福祉の受け手から担い手となる」発想で行政に働きかけて、理事である親たちは、自分たちのニーズに合った制度やサービスをつくりあげてゆきました。

続編となる本作『普通に死ぬ~いのちの自立~』は、その後、グループホームの開所や、設立十年を迎えて次第に変わりゆく運営方針や、3つ目の事業所建設という流れの中で、年齢を重ねてゆく本人とその家族を八年にわた

って撮影しました。その途中、「医療的ケア」を必要とする人の、在宅生活の中心的ケアラーであった母親が病に倒れます。残された子の母亡き後の地域生活…そこには厳しい現実がありました。

なぜ、医療的ケアが必要だと、「**地域で生きる**」ことが難しいのか。なぜこの人たちの生活や人生を社会が障害することになってしまふのか....。

映画は厳しい現実を見据えつつ、後半、家族と支援者、医療者の葛藤や気付きを物語の軸に、兵庫県へと、希望を探して旅に出ます。

そこには、伊丹市で〈しぇあーど〉を率いる李国本修慈さんと、西宮市で〈青葉園〉を率いる清水明彦さんらの重ねてきた地道な活動がありました。軽快でしなやかで、しかしとても健やかに人生を賭けて、真正面から繰り広げられている「一緒に生き合う」取り組みがありました。



「あいち国際女性映画祭2020」招待上映作品

■この著作の配給・ご購入等に関するお問合せは ■ マザーバード ■ motherbird

 bird.net

ドキュメンタリー

「普通に死ぬ~いのちの自立~」姫路上映会

入場無料

※定員：各部90名
先着順・要予約
申込み締切 7月7日(金)



2023年
開催日時：(令和5年)

7月15日(土)

●第1部(上映のみ)開場 9:30 / 開演 10:00 ※上映時間は119分です

●第2部(上映+ゲストとの対談) 開場 13:00 / 開演 13:30

◆ゲスト・映画に出演されている有限会社「さあーど」代表の李國本修蔵氏

会場：姫路市立書写養護学校 体育館

(姫路市晝写台三丁目148番地1)※会場地図は[こちら](#)(Googleマップ)→



※当日、医療的ケア等をご希望の方は、
申込み時または→
お問合せ専用メール
フォームで。



お問合せ先も
マザーリーフ 宛
motherleaf2009@gmail.com

■主催：マザーリーフ（姫路市肢体不自由児・者のこれからを考えての会） ■共催：重度障害支援ネットはりま ■後援：姫路市、姫路市教育委員会